おはよう愛宕山

☆ 発行所 ☆
『おはよう愛宕山新聞社』
〒741-0071 ☎&Fax31-3383
岩国市牛野谷町3-75-19

郵便振替 01510-0-19089
おはよう愛宕山新聞社

暑中お見舞い申し上げます

終戦特集

戦後69年、やっぱり平和が一番。

戦時中の雑誌から 戦争の愚かさを見る

内閣情報局発行「写真週報」

昭和17年から19年頃の日本政府が発行していた、「写真週報」という雑誌を入手した。大分前に本紙で少し紹介したことがあるが、憲法の解釈を変更し集団的自衛権の行使も可能にする閣議決定をした安倍政権の暴走を憂い今こそと改めてこの本をご紹介する。

この本は当時では珍しくA4版で毎週発行、内閣情報局が編集し内閣印刷局が発行した国営の雑誌。戦争の足音が近づいて来た昭和13年春頃創刊したようだが、手元に有るのは昭和17年2月の244号から昭和19年1月の第303号までに発行された21冊。毎号で戦意を高揚させる内容が紙面を埋めているが、終戦が近くなるとページ数も少なくなり、「贅沢は敵だ」とか食料増産のキャンペーンが目立つ。

裏表紙は毎号、戦費を確保するための国債や貯金の奨励で「ウレシイナ、ボクラノチョキンガタマニナル」とか子供にまで「お年玉で弾丸切手を買いませう」と富くじを宣伝している。

昭和18年9月15日号では若者が少なくなった中で航空機乗員の募集要項が載り、その応募要件は国民学校初等科を終了した者からとある。つまり13才から応募出来る訳で、修業年限1年の操縦生に至っては中等学校3年終了者から1年間で飛行機の操縦士を即成した。

しかし毎週発行紙面の何処にも戦況の説明は無く、国民には国の一方的な言い分だけを「これでもか！」と押しつけていく国家宣伝すり込みの手法が続く。

戦後69年間、曲がりなりにも続いてきた平和を否定し、逆回転させようとする動きを今こそ止めなくてはならない。段々薄れていくあの戦争の忌まわしい事柄を絶対に繰り返しては成らない戒めとして、その生きた教材としてこの雑誌を紹介する。

もっと詳しく本の内容を知りたい方は、「おはよう愛宕山新聞社」で閲覧出来ます。お電話下さい。（TEL 31-3383）

たむらじゅんげんの 老人福祉センター

牛野谷29号線添いの商業高校前に、岩国市老人福祉センターがある。隣の可燃物処理場の余熱利用で39年前に出来たお風呂が自玉の施設で、昨年度の全館利用者は33640人。カラオケや舞踊、碁や将棋など多彩なメニューで終日楽しめ、特に好評なのがお風呂だ。▼昨年度は焼却場の炉が故障し一月以上閉鎖したがそれでも17590人が風呂を利用、通常なら20000人は超える数だ。国保料や消費税は上がるし、年金生活者には厳しい時代だ。だからお風呂は有るし、色々な催しで楽しめるささやかな憩いの場が福祉センター。▼最近施設を利用している何人かの人から質問があった。「焼却場が移転したらお風呂は無くなるの？」…確かにゴミ焼却の余熱利用で出来た施設だから、基本的には廃止という選択だろう。しかしこの施設から年間3万人を超えるお年寄りの健康と生き甲斐が生まれている。その効果を考えれば即廃止という選択だけは絶対出せない筈であるが。